

## 1 ホームユース用花き生産をめぐる状況

## はじめに

ホームユースは一般に馴染みの少ない言葉である。家庭用とした方が分かり易いのであるが、今までの家庭用の花きは業務用の長い規格に足りない物や二級品が主に当てられていた。しかし、ホームユース用は最初の栽培段階から短い規格の優良な花きを生産し、手頃な価格で家庭に提供するものである。今までの家庭用から脱却した花きの生産ということでホームユースという言葉を理解していただきたい。

花きは生活のあらゆる機会で活用されて潤いと安らぎを与える存在となっている。その利用は冠婚葬祭等の業務用や贈答用としてこれまで拡大してきたが、最近はその需要が低下してきた反面、ホームユースの割合が高まり、需要は横ばいないし微減傾向となっている。一方、花きの生産動向をみると、外国、特に安く生産できる中南米のコロンビアや中国、インド、マレーシアなどからカーネーション、キク、バラを中心に切り花輸入が増加しており、国内花き産業に大きな影響を与えている。このような状況の中で、国内の花き生産振興を図るにはこれまでの業務用需要中心から脱却することが重要である。そのために、日持ち性などの品質や値頃感など、消費者ニーズに的確に対応した花きの生産やホームユース需要の拡大をしていくことが必要である。

## ホームユース需要に対応した生産・販売

近年、スーパーマーケットなどでの切り花販売が拡大する一方、一般小売店でも個人消費を意識して商品開発された小型の花束の販売が拡大したり、鉢物の小鉢化が見られるなど、花き全体について、自宅などで日常的に飾られるホームユース用が徐々に拡大する傾向にある。

## (1) ホームユースに合わせた短茎多収切り花栽培技術の確立と生産・出荷

ホームユース用の切り花は業務用の茎長80~90cmより短い60~65cm以下で十分なものが多く、ホームユース用に合わせた品種選択や日持ち・鮮度

の良さ、手ごろな値頃感が求められている。県ではカーネーションやバラなどで茎長を短くして収穫本数を増やし、高品質を維持しつつ1本当たりの生産コストを低減する短茎多収栽培技術の開発に取り組んでいる。今後収益性の一層の向上につながる単位面積当たりの収穫本数の増加のための技術開発を進める。また、ホームユース用切り花の主要な取扱者である花束加工業者は、相対取引により安定的な数量・価格で購入する傾向にある。このため、生産・出荷者は卸売業者などとともに連携しつつ、ホームユース用切り花の長期安定契約取引の拡大を図るとともにそれに対応する出荷体制を確立・推進する必要がある。

## (2) ホームユース用鉢ものなどの生産

鉢ものや花壇用苗ものについては、ホームユース用に合わせた品種や姿・形の花きの生産が進められているが、県ではこれをさらに推進して、花持ち性や育てやすさの向上など消費者ニーズへの対応を進めている。

ここでは、農業技術センター園芸部、淡路農業技術センター農業部で研究を進めているホームユース用の研究成果と現場の取組を紹介する。

高木 廣（農業技セ・園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790 - 47 - 2424）



図 スーパーで販売されるホームユース切り花